

10. 教育活動

宇宙地球環境研究所の大学院教育は、名古屋大学の理学研究科、工学研究科、環境学研究科の3研究科の協力講座として行なわれています。理学研究科では、素粒子宇宙物理学専攻の中の宇宙地球物理系として独立して運営されています。工学研究科では電気工学専攻の宇宙電磁環境工学講座として、環境学研究科では地球環境科学専攻の地球惑星科学系と大気水圏科学系の講座として宇宙地球環境研究に関連する教育を提供しています。

大学院生は、本研究所で推進している地上観測、フィールドワーク、室内実験、放射性同位体による年代測定、飛翔体搭載用観測機器の開発、観測データ解析、数値シミュレーション/モデリング・理論研究、など多様な手法によってそれぞれの分野の基盤的な研究を意欲的に深めることができます。また、本研究所が関わる研究分野では国内外の地上・衛星観測装置で取られたデータの活用や外国人研究者との共同研究が不可欠であり、国内外の研究者と議論を交わしながら、分野横断的な融合研究を通して新たな科学分野の創出に取り組みます。その成果を修士論文や博士論文としてまとめ、国内外の研究会・学会・学術雑誌などで発表しています。こうした環境の中、広い視野と国際的なセンスを持ち、知識を社会に還元できる人材の育成を目指します。

宇宙地球環境研究所の各研究部と理学研究科、工学研究科、環境学研究科における協力講座との関連

	理学研究科					工学研究科		環境学研究科						
	素粒子宇宙物理学専攻					電気工学専攻		地球環境科学専攻						
	宇宙地球物理系					電気工学分野		地球惑星科学系		大気水圏科学系				
	太陽地球系環境学講座		太陽地球関連理学講座		太陽地球系物理学講座	宇宙電磁環境工学講座		地球史学講座		地球水循環科学講座				
	太陽圏環境変動 (AM)	宇宙空間物理学観測 (SS ₂)	太陽宇宙環境物理学 (SS ₇)	宇宙線物理学 (OR)	太陽圏プラズマ物理学 (SW)	宇宙電磁観測	宇宙情報処理	微小領域年代測定	タンデトロン年代測定	気象学	雲降水科学	大気化学	水文気候学	海洋学
総合解析研究部			●			●								
宇宙線研究部				●										
太陽圏研究部					●									
電磁気圏研究部		●				●								
気象大気研究部	●					●			●	●	●			
陸域海洋圏生態研究部													●	●
年代測定研究部								●	●					
国際連携研究センター	●	●		●		●		●					●	
統合データサイエンスセンター			●	●			●	●		●	●			●
飛翔体観測推進センター	●	●		●						●	●			●

宇宙地球環境研究所で指導を受けている学生数

(2018年4月1日 - 2019年3月31日)

	博士前期課程		博士後期課程			学部生	非正規生	計
	1年	2年	1年	2年	3年			
理学研究科	14	15	4	3	10	-	1* ¹	47
工学研究科	5	8	0	1	1	-	-	15
環境学研究科	9	9	2	7	8	-	-	35
理学部	-	-	-	-	-	10	-	10
工学部	-	-	-	-	-	7	-	7
宇宙地球環境研究所	-	-	-	-	-	-	1* ²	1
計	28	32	6	11	19	17	2	115

※ 2018年度在籍延べ人数、*1 特別研究学生、*2 研究生

研究科担当教員

(2018年4月1日 - 2019年3月31日)

■ 理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻宇宙地球物理系

協力講座	教授	准教授	講師	助教
太陽地球系環境学	水野 亮	長瀬 智生		
太陽地球相関理学	平原 聖文	野澤 悟徳	大山 伸一郎	
		大塚 雄一		
	草野 完也	増田 智		家田 章正
太陽地球系物理学	伊藤 好孝	阿部 文雄	奥村 暁	毛受 弘彰
	田島 宏康	松原 豊		
		三宅 美沙		
	徳丸 宗利	岩井 一正		藤木 謙一

■ 工学研究科 電気工学専攻

協力講座	教授	准教授	講師	助教
宇宙電磁環境工学	塩川 和夫	西谷 望		中島 拓
		能勢 正仁		
	三好 由純	梅田 隆行	今田 晋亮	

■ 環境学研究科 地球環境科学専攻

協力講座	教授	准教授	講師	助教
大気水圏科学系 地球水循環科学	坪木 和久	篠田 太郎		
	高橋 暢宏	増永 浩彦		
	持田 陸宏			大畑 祥
	檜山 哲哉	栗田 直幸	藤波 初木	
	石坂 丞二	相木 秀則		三野 義尚
地球惑星科学系 地球史学	榎並 正樹	加藤 丈典		
	北川 浩之	南 雅代		小田 寛貴

学部教育への協力

本研究所教員は、次のように、名古屋大学の4年一貫教育に協力し、全学共通科目を担当する他、理工系学部からの要請により、講義・演習・実験・ゼミナールを担当している。また、理学部4年生、工学部4年生の卒業研究受け入れや研究生の教育指導も行っている。

■ 担当科目（2018年度）

学部	科目・学科	区分・コース	科目
全学教育科目	基礎科目	全学基礎科目	基礎セミナーA、基礎セミナーB
		理系基礎科目	物理学実験、地球科学入門
	教養科目	全学教養科目	ビッグバンから現代社会まで
		理系教養科目	宇宙科学、大気水圏環境の科学
理学部	物理学科		宇宙物理学Ⅲ、物理実験学、物理学実験Ⅰ・Ⅱ 物理学概論Ⅰ・Ⅱ、物理学特別実験、先端物理学特論 物理学概論Ⅰ
	地球惑星科学科		大気水圏科学、大気水圏科学基礎、岩石学、太陽地球系科学 同位体地球化学、地球環境化学（地圏環境化学） 地質学実験、岩石学実験、地球化学分析法Ⅱ及び実験
工学部	電気電子情報工学科	電気電子工学	数学Ⅰ及び演習A・B、確率論・数値解析及び演習、 電気回路論及び演習、電磁波工学

学外での非常勤講師等

- ・愛知県立芸術大学
- ・愛知大学
- ・金城学院大学
- ・九州大学大学院総合理工学府
- ・神戸大学
- ・椙山女学園大学
- ・千葉大学大学院工学研究院
- ・大同大学
- ・中京大学
- ・東京学芸大学
- ・東京大学大学院農学生命科学研究科
- ・東北大学大学院理学研究科
- ・獨協大学
- ・南山大学

大学院生の学会等発表状況

本研究所では大学院生の国際・国内学会での研究成果発表を支援している。2018年度は、延べ38件の国際学会・研究集会発表、97件の国内学会・研究集会発表があり、うち1件が発表賞を受賞（詳細は110ページからの研究成果資料参照）。

大学院生のフィールドワーク参加状況

■ 国内フィールドワーク

場 所	施設 観測地など	延べ参加学生数
三陸沖	海洋研究開発機構研究船新青丸	3
茨城県水戸市	茨城大学	3
神奈川県相模原市	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所	4
東京都三鷹市	国立天文台三鷹キャンパス先端技術センター	2
東京都小金井市	情報通信研究機構 (NICT)	1
岐阜県飛騨市神岡町	東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設	23
伊勢湾	愛知県水産試験場へいわ	9
伊勢湾	三重大学練習船勢水丸	6
滋賀県甲賀市信楽町	京都大学信楽 MU レーダー観測所	3
兵庫県神戸市	神戸市ものづくり工場管理事務所	4
有明海	佐賀大学	9
沖縄県南大東島	南大島村ビジターセンター島まるごと館	4
東シナ海	長崎大学練習船長崎丸	7
北海道足寄郡陸別町	名古屋大学宇宙地球環境研究所陸別観測所	3
長野県木曾郡木曾町	名古屋大学宇宙地球環境研究所木曾観測施設	2
愛知県豊川市	名古屋大学宇宙地球環境研究所豊川分室	6
鹿児島県垂水市	名古屋大学宇宙地球環境研究所附属鹿児島観測所、佐多観測点	1
国内参加学生合計人数 (延べ人数)		90

■ 海外フィールドワーク

場 所	施設 観測地など	延べ参加学生数
ドイツ ミュンヘン	マックス・プランクス核物理学研究所	1
ニュージーランド テカポ	マウントジョン天文台	3
フィンランド ソダンキュラ	Sodankyla Geophysical Observatory	1
アメリカ ガコナ	HAARP 観測所	1
カナダ ネーン	ネーン観測点	2
タイ バンコク、チョンブリ	Kasetsart university, Si Racha Fisheries Research Station, Burapha University, Chulalongkorn University	1
海外参加学生合計人数 (延べ人数)		9

11. 国際交流

学術交流協定

機関名	国（地域）名	締結日
インドネシア国立航空宇宙研究所	インドネシア	1988年 5月 31日
韓国宇宙天気センター	韓国	2012年 12月 24日
韓国海洋科学技術院海洋衛星センター	韓国	2014年 4月 17日
プキョン大学校環境・海洋大学	韓国	2006年 10月 2日
中国科学院高能物理研究所	中国	2001年 2月 20日
中国極地研究所	中国	2005年 11月 11日
国立台湾大学理学院大気科学系	台湾	2009年 10月 30日
国立台湾大学気象気候災害研究センター	台湾	2014年 9月 3日
バングラデシュ工科大学物理学部	バングラデシュ	2008年 3月 4日
ニュージーランド国立水圏大気圏研究所	ニュージーランド	1989年 7月 26日
オークランド大学地球物理研究センター	ニュージーランド	1992年 12月 7日
カンタベリー大学理学部	ニュージーランド	1998年 7月 30日
アラスカ大学地球物理研究所	米国	1990年 7月 16日
米国海洋大気局宇宙空間環境研究所	米国	1992年 12月 15日
米国海洋大気局地球物理データセンター	米国	1993年 1月 5日
マサチューセッツ工科大学ヘイスタック研究所	米国	1994年 10月 24日
カリフォルニア大学サン・ディエゴ校 天体物理及び宇宙科学研究センター	米国	1997年 12月 22日
バージニア工科大学宇宙空間科学工学研究センター	米国	2013年 1月 23日
ラパス・サンアンドレス大学理学部附属チャカルタヤ宇宙線研究所	ボリビア	1992年 2月 20日
ブラジル国立宇宙科学研究所	ブラジル	1997年 3月 5日
スウェーデン宇宙物理研究所	スウェーデン	2005年 9月 1日 (1993年3月25日から継続)
トロムソ大学理学部	ノルウェー	2003年 4月 2日 (1993年10月8日から継続)
フィンランド気象研究所地球物理部門	フィンランド	1994年 10月 21日
エレバン物理研究所	アルメニア	1996年 10月 18日
ロシア科学アカデミー極東支部・宇宙物理学及び電波伝搬研究所	ロシア	2007年 4月 14日
ロシア科学アカデミーシベリア支部・太陽地球系物理学研究所	ロシア	2008年 10月 28日
ロシア科学アカデミーシベリア支部・宇宙物理学及び超高層大気物理学研究所	ロシア	2012年 11月 28日
ムルマンスク極地地球物理学研究所	ロシア	2017年 3月 13日

注) 締結日は宇宙地球環境研究所を構成する旧組織における締結日になります。

国際協力事業・国際共同研究

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関
太陽面爆発の発生機構に関する研究	草野 完也	ドイツ	ポツダム大学
太陽面爆発の発生機構に関する観測研究	草野 完也	米国 中国	ニュージャージー工科大学 中国科学技術大学
太陽面爆発のモデリングに関する研究	草野 完也	米国	ハーバード・スミソニアン天体物理学センター
太陽フレアのトリガ機構に関する研究	草野 完也	英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン マラード宇宙科学研究所
磁気リコネクションに関する研究	草野 完也	英国	マンチェスター大学
野辺山電波ヘリオグラフを用いた太陽研究	増田 智	米国 中国 韓国 ロシア 英国 ドイツ スイス ベルギー	GSFC/NASA、カトリック大学、ニュージャージー工科大学 中国科学院国家天文台 KASI、ソウル国立大学校 ロシア科学アカデミー ウォリック大学 ゲッティンゲン大学 University of Applied Sciences and Arts Northwestern Switzerland ルーベン・カトリック大学
米国 NASA/RBSP 衛星計画	三好 由純	米国	NASA、JHUAPL
内部磁気圏のモデリング研究	三好 由純	米国	ロスアラモス国立研究所
ISSI-BJ における脈動オーロラ国際研究プロジェクト	三好 由純	米国 中国 フィンランド チェコほか	UCLA 北京大学 ソダンキラ地球物理観測所 チェコ科学アカデミー
ERG プロジェクトに係る国際共同研究	三好 由純	台湾	中央研究院天文及天文物理研究所
LHC 加速器を用いた高エネルギー宇宙線相互作用の研究	伊藤 好孝	イタリア フランス スイス 米国	フィレンツェ大学、カタニア大学 フランス理工科学学校 欧州合同原子核研究機関 ローレンスバークレー国立研究所
巨大水チェレンコフ検出器を用いた宇宙ニュートリノの研究	伊藤 好孝	米国 カナダ 英国 スペイン 韓国 中国 ポーランド	ボストン大学、ブルックヘブン国立研究所、UCI、デューク大学、ジョージ・メイソン大学、ハワイ大学、インディアナ大学、ロスアラモス国立研究所、メリーランド大学、ニューヨーク州立大学、ワシントン大学 ブリティッシュコロンビア大学、トロント大学、トライアンプ研究所 インペリアル・カレッジ・ロンドン、リバプール大学、ロンドン大学クイーン・メアリー、オックスフォード大学、シェフィールド大学 マドリッド大学 ソウル国立大学校、成均館大学校、全南大学校 清華大学 ワルシャワ大学
液体キセノン検出器を用いた暗黒物質・太陽ニュートリノの研究	伊藤 好孝	韓国	ソウル国立大学校、世宗大学校、韓国標準科学研究院
RHIC 加速器を用いた高エネルギー宇宙線相互作用の研究	伊藤 好孝	イタリア 米国	フィレンツェ大学、カタニア大学 ブルックヘブン国立研究所

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関
次世代大型水チェレンコフ検出器の開発研究	伊藤 好孝	米国 韓国 中国 英国 イタリア フランス スイス スペイン ポーランド ブラジル ほかカナダ、ロシア、ポルトガルなど	ボストン大学、ブルックヘブン国立研究所、ロスアラモス国立研究所、UCI、デューク大学、ジョージ・メイソン大学、ハワイ大学、インディアナ大学、メリーランド大学、ニューヨーク州立大学、ワシントン大学 ソウル国立大学校、全南大学校、成均館大学校 精華大学 インペリアル・カレッジ・ロンドン、オックスフォード大学、ロンドン大学クイーン・メアリー、ランカスター大学、シェフィールド大学、ラザフォード・アップルトン研究所 INFN パーリ、INFN ナポリ、INFN パドバ、INFN ローマ サクレイ研究所、フランス理工科学校 チューリッヒ工科大学、ベルン大学 マドリッド大学 ワルシャワ大学 サンパウロ大学
二相式液体キセノン TPC 検出器を用いた暗黒物質・太陽ニュートリノの研究	伊藤 好孝	ドイツ イタリア スイス 米国 スウェーデン イスラエル ポルトガル フランス、オランダ、UAE	マックス・プランク研究所、フライブルグ大学 INFN、ボローニャ大 チューリッヒ大 コロンビア大学、シカゴ大学、パデュー大学、UCSD ストックホルム大学 ワイズマン研究所 コインブラ大学 ほか
CTA(チェレンコフ望遠鏡群)を用いた宇宙線加速源、暗黒物質の研究	田島 宏康	ドイツ フランス イタリア スペイン スイス 英国 米国 ほかポーランド、ブラジル、アルゼンチン、アルメニア、オーストリア、ブルガリア、クロアチア、チェコ、フィンランド、ギリシャ、インド、アイルランド、スロベニア、南アフリカ、スウェーデンなど	ドイツ電子シンクロトロン研究所、マックス・プランク研究所、ハイデルベルグ大学 サクレイ原子力研究所、フランス理工科学校、パリ大学 INFN、IFSI バルセロナ大学、マドリッド・コンプルテンセ大学 チューリッヒ大学 ダラム大学、レスター大学、リード大学 SLAC 国立加速器研究所、アルゴンヌ国立研究所、ワシントン大学、アイオワ州立大学、UCLA、UCSC、シカゴ大学、スミソニアン天文台 （主要機関のみ記載）

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関
フェルミ衛星を用いた宇宙線加速源、暗黒物質の研究	田島 宏康	米国 フランス イタリア スウェーデン	スタンフォード大学、SLAC 国立加速器研究所、GSFC/NASA、米国海軍研究所、UCSC、ソノマ州立大学、ワシントン大学、パデュー大学、オハイオ州立大学、デンバー大学 サクレ原子力研究所、CNRS、フランス理工学校 INFN、イタリア宇宙機関、IFSI スウェーデン王立工科大学、ストックホルム大学
硬 X 線撮像分光観測による太陽フレアの研究	田島 宏康	米国	UCB、MSFC/NASA、米国空軍研究所
ガンマ線撮像分光偏光観測による太陽フレアの研究	田島 宏康	米国	UCB、ローレンスパークレー国立研究所、GSFC/NASA
マイクロレンズ効果を利用した新天体の探索	阿部 文雄	ニュージーランド 米国	オークランド大学、カンタベリー大学、ビクトリア大学、マッセー大学 メリーランド大学、NASA
太陽中性子の研究	松原 豊	ボリビア アルメニア 中国 米国 メキシコ	サンアンドレス大学 エレバン物理研究所 中国科学院高能物理研究所 ハワイ大学国立天文台 メキシコ国立自治大学
樹木年輪の ^{14}C 単年測定による過去の宇宙線イベントの探索	三宅 美沙	米国 スイス	アリゾナ大学 スイス連邦工科大学チューリッヒ校
惑星間空間シンチレーション・ネットワークによる惑星間空間擾乱の研究	徳丸 宗利	英国 ロシア インド メキシコ オーストラリア	LoFAR グループ レベデフ物理学研究所 タタ基礎科学研究所 メキシコ国立自治大学 MWA グループ
太陽圏トモグラフィー法を用いた太陽風 3 次元構造とダイナミックスの研究	徳丸 宗利	米国	CASS/UCSD
惑星間空間シンチレーション観測の宇宙天気予報への応用に関する研究	徳丸 宗利	韓国	韓国宇宙天気センター
惑星間空間シンチレーション観測を利用した太陽圏外圏域の研究	徳丸 宗利	米国	IBEX 研究グループ、IMAP
赤道大気エネルギーによる熱圏変動の研究	大塚 雄一	インドネシア	LAPAN
電離圏および超高層大気の観測・監視および研究	大塚 雄一	タイ	チェンマイ大学
SDI-3D プロジェクト：極域熱圏大気プロファイラの開発	大山 伸一郎	米国 フィンランド スウェーデン	アラスカ大学ジョーフィジカル・インスティテュート オウル大学、ラッペーンランタ大学、Sodankylä Geophysical Observatory、フィンランド気象研究所 スウェーデン宇宙物理研究所、スウェーデン王立工科大学
高エネルギーオーロラ電子がもたらす地球超高層大気・中層大気への影響の研究	大山 伸一郎	フィンランド ニュージーランド 英国 ノルウェー 米国	オウル大学、フィンランド気象研究所 オタゴ大学 英国南極調査局 スヴァールバル大学 アラスカ大学
SCOSTEP VarSITI プログラム	塩川 和夫	米国、英国、フランス、ドイツ、オーストラリア、カナダ、イタリア、インド、中国など	SCOSTEP

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関
カナダ北極域におけるオーロラ・超高層大気の高感度光学・電磁場観測	塩川 和夫	米国 カナダ	カリフォルニア大学、アウグスブルグ大学、バージニア工科大学 カルガリー大学、アサバスカ大学
中緯度熱圏大気波動の南北共役点観測	塩川 和夫	オーストラリア	IPS Radio and Space Service
赤道域中間圏・熱圏・電離圏変動のアジア経度と南米経度の比較研究	塩川 和夫	ブラジル	INPE
ロシア極東域におけるオーロラ・超高層大気の高感度光学・電磁場観測	塩川 和夫	ロシア	ロシア科学アカデミー極東支部宇宙物理学及び電波伝搬研究所
東南アジア・西アフリカ赤道域における電離圏総合観測	塩川 和夫	ナイジェリア コートジボアール	国立宇宙科学開発機関、ナイジェリア工科大学 フェリックス・ウフェ・ボワニ大学
ロシア・シベリア域における内部磁気圏の波動・粒子の観測	塩川 和夫	ロシア	ロシア科学アカデミーシベリア支部 IKFIA 研究所・ISTP 研究所
短波レーダーによる極域・中緯度域電磁気圏の研究	西谷 望	米国 英国 フランス 南アフリカ オーストラリア カナダ イタリア ロシア 中国	JHUAPL、バージニア工科大学 レスター大学 LPC2E/CNRS ナタル大学 ラトロープ大学 サスカチュワン大学 IFSI ISTP/SB RAS 中国極地研究所
EISCAT レーダーを主に用いた北極域超高層大気の研究	野澤 悟徳	ノルウェー 英国、スウェーデン、フィンランド、ドイツ、中国	トロムソ大学 EISCAT 科学協会
低緯度地磁気データを用いたサブストーム指数の算出	能勢 正仁	オーストラリア トルコ ドイツ スペイン デンマーク 米国	オーストラリア地球科学研究所 ボアジチ大学 ルードビッヒ・マキシミラン大学 ラモン・リェリ大学 デンマーク工科大学 アメリカ地質調査所
水星磁気圏探査衛星計画「MMO」におけるプラズマ粒子分析器の研究・開発・運用	平原 聖文	フランス スウェーデン 英国 米国 スイス	CESR/CNRS、CETP/IPSL スウェーデン宇宙物理研究所 ラザフォード・アップルトン研究所 ボストン大学 ベルン大学ほか
編隊飛行観測による地球電磁気熱圏探査のための将来衛星計画と衛星・地上連携観測の検討・協同	平原 聖文	スウェーデン	スウェーデン宇宙物理研究所、スウェーデン国立宇宙委員会
宇宙地球結合系の将来探査計画に向けた科学課題と観測機器開発技術に関する研究	平原 聖文	米国 カナダ スウェーデン	コロラド大学ボルダー校、UCB カルガリー大学 スウェーデン宇宙物理研究所
インド北部水田地帯におけるメタンの連続観測	松見 豊	インド	デリー大学
ハノイにおける PM2.5 観測	松見 豊	ベトナム	ハノイ理工科大学
ウランバートルにおける PM2.5 観測	松見 豊	モンゴル	モンゴル国立大学
南米 SAVER-Net 観測網を用いたエアロゾル・大気微量気体の動態把握	水野 亮	アルゼンチン チリ ボリビア	レーザー応用技術研究センター、アルゼンチン気象局 マゼラン大学、チリ気象局 ラフロンテラ大学、サンアンドレス大学

11. 国際交流

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関
太陽地球環境における高エネルギー粒子の生成と役割：気候変動への影響を探る	水野 亮	米国 ノルウェー スウェーデン	コロラド大学ボルダー校、UCLA、アリゾナ大学 トロムソ大学 EISCAT 科学協会
北京の有機エアロゾルの起源推定	持田 陸宏	中国	天津大学
北極域におけるエアロゾル・雲の航空機観測	大畑 祥	ドイツ	アルフレード・ヴェーゲナー極地・海洋研究所 (AWI)、ライプツィヒ大学
北極域におけるブラックカーボンエアロゾルの長期観測	大畑 祥	ノルウェー 米国 カナダ ロシア	ノルウェー極地研究所 アメリカ海洋大気庁 カナダ政府 ロシア極地研究所
熱帯降雨観測衛星	高橋 暢宏	米国	NASA
全球降水観測計画 (GPM)	高橋 暢宏 増永 浩彦	米国	NASA
熱帯放射対流相互作用の研究	増永 浩彦	フランス	Laboratoire de Meteorology Dynamique/CNRS
熱帯・亜熱帯大気力学の研究	増永 浩彦	米国	マイアミ大学
台風の航空機観測計画 T-PARCII	坪木 和久 篠田 太郎	台湾	国立台湾大学理学院大気科学系
乾燥・半乾燥地域における降水強化に関する先端的研究	村上 正隆	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦気象局、Khalifa University
統合陸域生態系－大気プロセス研究計画 (iLEAPS)	檜山 哲哉	英国、インド、フィンランド、ニュージーランド、中国、韓国ほか	イギリス自然環境調査協議会生態学水文学研究センター
東シベリアにおける気候変化と炭素循環変化の解明に向けた、水・エネルギー・植生の観測的研究	檜山 哲哉	ロシア	ロシア科学アカデミーシベリア支部・寒冷圏生物問題研究所
北極域研究推進プロジェクト (ArCS)	檜山 哲哉	米国	アラスカ大学フェアバンクス校、国際北極圏研究センター
モンゴル中央部における凍土地下水の年代推定	檜山 哲哉	モンゴル	モンゴル科学アカデミー、地理学地生態学研究所
東シベリアにおけるメタンフラックス観測とデータ解析	檜山 哲哉	ロシア	北東連邦大学自然科学研究所
Towards a Deeper understanding of Tropical Isoscapes	栗田 直幸	オーストラリア	ジェームズクック大学
大気海洋中の赤道波動に関する研究	相木 秀則	ドイツ	キール海洋研究センター(GEOMAR)
静止衛星海色イメージャー (GOCI) の検証と日本沿岸水のモニタリングへの応用	石坂 丞二	韓国	国立海洋研究院
GCOM-C 沿岸プロダクトの検証用データセット取得	石坂 丞二	韓国 米国 台湾 タイ 中国 エストニア	韓国海洋科学技術院 コロンビア大学、東カロライナ大学 台湾国立成功大学 ブラパ大学 国家海洋局第一海洋研究所、南京科学技術大学 タルトゥ大学
Sea Surface Nitrate and Nitrate Based New Production - two innovative research products from SGLI on board GCOM-C	石坂 丞二	米国	コロンビア大学
Validation of ocean color products in the western North Pacific and Japanese coastal waters: Collaboration with JAXA GCOM-C project	石坂 丞二	ドイツ	欧州気象衛星開発機構

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関
Investigating the Optical Characteristics of Red Tides in the Upper Gulf of Thailand	石坂 丞二	タイ	ブラパ大学、カセサート大学
インド考古遺跡出土青銅器資料の ¹⁴ C年代測定	小田 寛貴	インド	Deccan College
ロシア考古遺跡出土青銅器資料の ¹⁴ C年代測定	小田 寛貴	ロシア	ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学・考古学・民俗学研究所
日本列島及び朝鮮半島における基盤岩類の地質年代学的研究	加藤 丈典	大韓民国	韓国地質資源研究院(KIGAM)
EPMAによる測定法及び高精度定量分析法の開発研究	加藤 丈典	大韓民国	釜山国立大学(PNU)
ベトナム中部高原地域の気候変動復元	北川 浩之	ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー
国際陸上科学掘削計画死海深層掘削プロジェクト	北川 浩之	イスラエル 米国 ドイツ スイス	Geological Survey of Israel, Hebrew University of Jerusalem コロンビア大学、ミネソタ大学ツインシティー校 ポツダム地学研究ヘルムホルツセンター (GFZ) マックス・プランク科学研究所 Université de Genève
韓国地下水・温泉水の炭素 14 年代測定と水循環機構の研究	南 雅代	韓国	韓国地質資源研究院(KIGAM)
イラン・クルジスタン、Takht-e-Soleyman 地域のトラバーチンを用いた古環境復元	南 雅代	イラン	University of Kurdistan

海外機関所属研究者の来訪

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Mark Looper	米国	The Aerospace Corporation	2018.4.15 - 4.20	外国人来訪者
Jianwei Lin	台湾	国立台湾大学	2018.4.16 - 4.20	外国人共同研究員
Bernhard Kliem	ドイツ	ポツダム大学	2018.4.17 - 5.3	外国人来訪者
Antonia Savcheva	米国	スミソニアン天文台	2018.4.18 - 5.3	外国人来訪者
Naomi Maruyama	米国	コロラド大学	2018.5.13 - 5.19	研究集会等参加者
Joaquim E R Costa	ブラジル	INPE	2018.5.13 - 5.25	研究集会等参加者
Felix Riehn	ポルトガル	Laboratório de Instrumentação e Física Experimental de Partículas	2018.5.14 - 5.20	外国人来訪者
Reinhard Friedel	米国	ロスアラモス国立研究所	2018.5.14 - 5.20	研究集会等参加者
Juan Americo Gonzales Esparza	メキシコ	メキシコ国立自治大学	2018.5.14 - 5.24	研究集会等参加者
Sebastien Rougerie	フランス	フランス国立宇宙研究センター	2018.5.14 - 5.24	研究集会等参加者
Joel T Dahlin	米国	GSFC/ NASA	2018.5.14 - 5.25	研究集会等参加者
Brett Anthony Carter	オーストラリア	ロイヤルメルボルン大学	2018.5.15 - 5.26	研究集会等参加者
Changhyu Ko	韓国	韓国宇宙天気センター	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Charles Lin	台湾	台湾国立成功大学	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Danny Summers	カナダ	ニューファンドランドメモリアル大学	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Jangsuk Choi	韓国	韓国宇宙天気センター	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Jiyoung Kim	韓国	大韓民国気象庁	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Marcin Marek Latocha	オーストリア	Seibersdorf Laboratories	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Suhaila Binti M Buhari	マレーシア	マレーシア工科大学	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Xiaoxin Zhang	中国	中国気象局	2018.5.16 - 5.18	研究集会等参加者
Michael Terkildsen	オーストラリア	オーストラリア気象局	2018.5.16 - 5.24	研究集会等参加者
Gerald David Stedge	米国	Abt Associates	2018.5.18 - 5.25	研究集会等参加者
Gupta Sunilkumar	インド	タタ基礎科学研究所	2018.5.19 - 5.25	研究集会等参加者
Semen Khokhlov	ロシア	NRNU MEPhI	2018.5.19 - 5.25	研究集会等参加者

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Ke Fang	米国	メリーランド大学	2018.5.19 - 5.26	研究集会等参加者
Alexander Iakovlev	カザフスタン	Nazarbayev University	2018.5.19 - 5.27	研究集会等参加者
Juan Carlos Arteaga-Velazquez	メキシコ	Universidad Michoacana	2018.5.19 - 5.27	研究集会等参加者
Igor Petrov	ロシア	Yu.G. Shafer Institute of Cosmophysical Research and Aeronom	2018.5.20 - 5.26	研究集会等参加者
Akihiko Monnai	フランス	Institut de Physique Théorique, CNRS/CEA	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Alberto Oliva	スイス	Centro de Investigaciones Energéti cas Medioambientales y Tecno	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Alexander Borisov	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Alexander Lidvansky	ロシア	INR RAS	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Anatoli Fedynitch	ドイツ	Deutsches Elektronen-Synchrotron	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Anatoly Ivanov	ロシア	Shafer Institute for Cosmophysical Research and Aeronomy	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Andrea Chiavassa	イタリア	Università degli studi & INFN Torino	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Anton Lukyashin	ロシア	NRNU MEPhI	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Artur Tkachenko	ロシア	INR RAS	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Bryan Pattison	スイス	CERN	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Cunfeng Feng	中国	山東大学	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Daniel Garcia-Fernandez	フランス	Subatech	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Daniel Biehl	ドイツ	Deutsches Elektronen-Synchrotron	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Dennis Soldin	米国	University of Delaware and Bartol Research Institute	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Dmitriy Beznosko	カザフスタン	Nazarbayev University	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Donghwa Kang	ドイツ	Karlsruhe Institute of Technology	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Edison Hiroyuki Shibuya	ブラジル	カンピーナス州立大学	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Eduardo De La Fuente Acosta	メキシコ	Universidad de Guadalajara	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Eli Waxman	イスラエル	ワイツマン科学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Ervin Kafexhiu	ドイツ	Max-Planck-Institute for Nuclear Physics	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Etienne Parizot	フランス	APC, University of Paris	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者

11. 国際交流

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Fiorenza Donato	イタリア	Torino University	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Frank Schroder	ドイツ	Karlsruhe Institute of Technology	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Gernot Maier	ドイツ	Deutsches Elektronen-Synchrotron	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Hans Dembinski	ドイツ	Max-Planck-Institute for Nuclear Physics	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Hermes Leon Vargas	メキシコ	メキシコ国立自治大学	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Il Park	韓国	成均館大学校	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Janusz Kempa	ポーランド	ワルシャワ工科大学	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Javier Gonzalez	米国	デラウェア大学	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Jing Huang	中国	中国科学院高能物理研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Kenichi Sakai	米国	GSFC/NASA	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Kfir Blum	スイス	Weizmann Institute & CERN	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Klaus Werner	フランス	Université de Nantes	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Krzysztof Wieslaw Wozniak	ポーランド	ポーランド科学アカデミー	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Leif Lonblad	スウェーデン	ルンド大学	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Lev Timofeev	ロシア	The Yu.G. Shafer Institute of Cosmophysical Research and Aeronomy SB RAS	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Maria Lavrova	ロシア	Joint Institute for Nuclear Research	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Markus Ackermann	ドイツ	Deutsches Elektronen-Synchrotron	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Mauricio Bustamante	デンマーク	Niels Bohr Institute	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Mikhail Kuznetsov	ロシア	INR RAS	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Minho Kim	韓国	高麗大学校	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Nikolay Topchiev	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Paschal Coyle	フランス	Centre de Physique des Particules de Marseille	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Ralf Matthias Ulrich	ドイツ	Karlsruhe Institute of Technology	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Ralph Engel	ドイツ	Karlsruhe Institute of Technology	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Raul Ribeiro Prado	ドイツ	Deutsches Elektronen-Synchrotron	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Rim Mirzafatikhov	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Rostislav Kokoulin	ロシア	NRNU MEPhI	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Sebastian Baur	ドイツ	Karlsruhe Institute of Technology	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Sergey Ostapchenko	ドイツ	Frankfurt Institute for Advanced Studies	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Sergey Shaulov	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Sergey Suchkov	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Sergey S. Borisov	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Sergio Petrera	イタリア	Gran Sasso Science Institute and INFN Laboratori Nazionali del Gran Sasso	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Soomin Jeong	韓国	成均館大学校	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Spencer Klein	米国	UCB	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Stefan Ohm	ドイツ	Deutsches Elektronen-Synchrotron	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Sunny Seo	韓国	Institute of Basic Science	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Tanguy Pierog	ドイツ	Institute for Nuclear Physics/IKP	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Thorsten Glusenkamp	ドイツ	Erlangen Center for Astroparticle Physics	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Tileubek Uakhitov	カザフスタン	Nazarbayev University	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Vera Georgievna Sinitsyna	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Vera Yurievna Sinitsyna	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Vladimir Ryabov	ロシア	レベデフ物理学研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Wen Yin	中国	中国科学院高能物理研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
William Hanlon	米国	ユタ大学	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Xu Chen	中国	中国科学院高能物理研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Ying Zhang	中国	中国科学院高能物理研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Yuhui Lin	中国	中国科学院高能物理研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Zbigniew Plebaniak	ポーランド	National Centre for Nuclear Research	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Zbigniew Wlodarczyk	ポーランド	Jan Kochanowski University, Kielce	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者

11. 国際交流

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Zhe Li	中国	中国科学院高能物理研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Zhen Cao	中国	中国科学院高能物理研究所	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Zohra Bouhali	アルジェリア	Badji Mokhtar University	2018.5.21 - 5.25	研究集会等参加者
Kohta Murase	米国	ペンシルベニア州立大学	2018.5.21 - 5.26	研究集会等参加者
Asgari-Targhi Mahboubeh	米国	ハーバード・スミソニアン天体物理学センター	2018.6.10 - 6.20	外国人共同研究員
Mikinori Kuwata	シンガポール	南洋理工大学	2018.7.2	外国人来訪者
Erica Lastufka	スイス	University of Applied Sciences and Arts Northwestern Switzerland	2018.7.2 - 7.13	外国人来訪者
Khan-Hyuk Kim	韓国	慶熙大学校	2018.7.5	研究集会等参加者
Bernard Jackson	米国	UCSD	2018.7.6	外国人共同研究員
V. Lakshmi Narayanan	インド	National Atmospheric Research Laboratory	2018.7.8 - 7.15	研究集会等参加者
Hai Guo	中国	香港理工大学	2018.7.9	外国人来訪者
Exner Willi	ドイツ	ブラウンシュバイク工科大学	2018.7.11 - 7.13	外国人来訪者
Hyomin Kim	米国	ニュージャージー工科大学	2018.7.21 - 8.3	外国人来訪者
Marcos Anzorena	メキシコ	メキシコ国立自治大学	2018.7.23 - 9.20	外国人来訪者
Rocio Garcia Ginez	メキシコ	メキシコ国立自治大学	2018.7.23 - 9.20	外国人来訪者
Hajihossein Azizi	イラン	クルジスタン大学	2018.8.1 - 9.1	外国人共同研究員
Mitsuo Oka	米国	UCB	2018.8.3 - 8.10	研究集会等参加者
Nariaki Vincent Nitta	米国	Lockheed Martin Solar and Astrophysics Laboratory	2018.8.4 - 8.11	研究集会等参加者
Seiji Yashiro	米国	アメリカ・カトリック大学	2018.8.4 - 8.12	研究集会等参加者
Joseph Benjamin Harold Baker	米国	バージニア工科大学	2018.8.6	外国人来訪者
Jonathan Abbatt	カナダ	トロント大学	2018.9.22 - 9.24	研究集会等参加者
Hartmut Herrmann	ドイツ	Leibniz Institute for Tropospheric Research	2018.9.22 - 9.25	研究集会等参加者
Florian Billy Alexis Mekhaldi	スウェーデン	ルンド大学	2018.9.27 - 10.6	研究集会等参加者
Edward Cliver	米国	ナショナル・ソーラー天文台	2018.9.29 - 10.6	研究集会等参加者
Clive Dyer	英国	CSDRAD Consultancy	2018.9.30 - 10.7	研究集会等参加者

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Evgueni Rozanov	スイス	Physical Meteorological Observatory in Davos / World Radiation Centre	2018.9.30 - 10.7	研究会等参加者
Ilya Usoskin	フィンランド	オウル大学	2018.9.30 - 10.7	研究会等参加者
Lukas Wacker	スイス	Ion Beam Physics, ETH Zurich	2018.9.30 - 10.7	研究会等参加者
Markku Oinonen	フィンランド	ヘルシンキ自然史博物館	2018.9.30 - 10.7	研究会等参加者
Stepan Poluianov	フィンランド	オウル大学	2018.9.30 - 10.7	研究会等参加者
Dmitry Sokolov	ロシア	モスクワ大学	2018.10.1 - 10.5	研究会等参加者
Fayin Wang	中国	南京大学	2018.10.1 - 10.6	研究会等参加者
Anthony John Timothy Jull	米国	アリゾナ大学	2018.10.1 - 10.7	研究会等参加者
Milija Zupnaski	米国	コロラド州立大学	2018.10.3	外国人来訪者
Aaron Hendry	チェコ	Institute of Atmospheric Physics AS CR	2018.10.12 - 10.20	外国人共同研究員
Benjamin Grison	チェコ	Institute of Atmospheric Physics AS CR	2018.10.12 - 10.20	外国人共同研究員
Ivana Kolmasova	チェコ	Institute of Atmospheric Physics AS CR	2018.10.12 - 10.20	外国人共同研究員
Ondrej Santolik	チェコ	Institute of Atmospheric Physics AS CR	2018.10.12 - 10.20	外国人共同研究員
Ulrich Taubenschuss	チェコ	Institute of Atmospheric Physics AS CR	2018.10.12 - 10.20	外国人共同研究員
Nariaki Vincent Nitta	米国	Lockheed Martin Solar and Astrophysics Laboratory	2018.10.14 - 10.21	外国人共同研究員
Chihyu Chiang	台湾	台湾国立成功大学	2018.10.21 - 10.27	外国人来訪者
Jeffrey D Hawkins	米国	米国海軍研究所	2018.10.23 - 10.30	外国人来訪者
Cheng-Yu Chen	台湾	国立台湾大学	2018.10.25	外国人来訪者
Hua Hsu	台湾	国立台湾大学	2018.10.25	外国人来訪者
Hung Chi Kuo	台湾	国立台湾大学	2018.10.25	外国人来訪者
Hungjui Yu	台湾	国立台湾大学	2018.10.25	外国人来訪者
Yu Han Chen	台湾	国立台湾大学	2018.10.25	外国人来訪者
Feng Chen	米国	コロラド大学ボルダー校	2018.11.1 - 11.10	研究会等参加者
Margaret Shanafield	オーストラリア	フリンダース大学	2018.11.2	外国人来訪者
Okke Batelaan	オーストラリア	フリンダース大学	2018.11.2	外国人来訪者

11. 国際交流

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Saskia Noorduijn	オーストラリア	フリンダース大学	2018.11.2	外国人来訪者
Matthias Rempel	米国	アメリカ大気研究センター	2018.11.3 - 11.10	研究集会等参加者
Yuhong Fan	米国	アメリカ大気研究センター	2018.11.3 - 11.11	研究集会等参加者
Georgios Chintzoglou	米国	LMSAL	2018.11.4 - 11.10	研究集会等参加者
Mark Derosa	米国	LMSAL	2018.11.4 - 11.10	研究集会等参加者
Mark Cheung	米国	LMSAL	2018.11.4 - 11.10	研究集会等参加者
Meng Jin	米国	LMSAL	2018.11.4 - 11.10	研究集会等参加者
Sanja Danilovic	スウェーデン	ストックホルム大学	2018.11.4 - 11.10	研究集会等参加者
Xudong Sun	米国	ハワイ大学/国立天文台	2018.11.4 - 11.10	研究集会等参加者
Chaowei Jiang	中国	ハルビン工業大学	2018.11.5 - 11.10	研究集会等参加者
Han He	中国	中国科学院国家天文台	2018.11.5 - 11.10	研究集会等参加者
Sandric Chee Yew Leong	シンガポール	シンガポール国立大学	2018.11.6 - 11.7	研究集会等参加者
Go Iwahana	米国	アラスカ大学フェアバンクス校	2018.11.11 - 11.14	外国人共同研究員
Hyyangpyo Kim	韓国	韓国天文研究院	2018.11.11 - 11.14	外国人共同研究員
Yukinaga Miyashita	韓国	韓国天文研究院	2018.11.11 - 11.14	外国人来訪者
Takanobu Yamaguchi	米国	コロラド大学ボルダー校	2018.11.20	外国人来訪者
Takuma Nakamura	オーストリア	Austrian Academy of Sciences	2018.11.21 - 11.29	外国人共同研究員
Tong Phuoc Hoang Son	ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー	2018.12.1 - 12.6	研究集会等参加者
Playfer Stephen Michael	英国	エジンバラ大学	2018.12.3 - 12.19	外国人共同研究員
Nariaki Vincent Nitta	米国	Lockheed Martin Solar and Astrophysics Laboratory	2018.12.6 - 12.18	外国人共同研究員
John Morgan	オーストラリア	カーティン大学	2018.12.7	外国人共同研究員
Kamorn Bandudej	タイ	タイ国立天文学研究所	2018.12.21	外国人来訪者
Pattarapong Phasukkit	タイ	キングモンククツ工科大学北バンコク校	2018.12.21 - 2019.12.21	外国人来訪者
Bjorn Stevens	ドイツ	マックス・プランク気象研究所	2018.12.25 - 12.26	外国人来訪者
Magnus Woods	英国	マラード宇宙科学研究所	2019.1.5 - 1.18	外国人共同研究員

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Baolin Tan	中国	中国科学院国家天文台	2019.1.7 - 1.25	外国人来訪者
Valentina Zharkova	イギリス	ノーザンプリア大学	2019.1.10 - 2.1	外国人来訪者
Fei Liu	中国	中国科学院国家天文台	2019.1.21 - 1.25	外国人来訪者
Linjie Chen	中国	中国科学院国家天文台	2019.1.21 - 1.25	外国人来訪者
Wei Wang	中国	中国科学院国家天文台	2019.1.21 - 1.25	外国人来訪者
Yihua Yan	中国	中国科学院国家天文台	2019.1.21 - 1.25	外国人来訪者
Zhijun Chen	中国	中国科学院国家天文台	2019.1.21 - 1.25	外国人来訪者
Yoichi Kazama	中国	台湾中央研究院 天文及天文物理研究所	2019.2.1	外国人共同研究員
Chengming Tan	中国	中国科学院国家天文台	2019.2.1 - 2.12	外国人来訪者
Hisao Takahashi	ブラジル	INPE	2019.2.22 - 3.3	研究集会等参加者
Gupta Sunilkumar	インド	タタ基礎科学研究所	2019.2.23 - 3.1	外国人共同研究員
John Richardson	米国	マサチューセッツ工科大学	2019.2.23 - 3.1	研究集会等参加者
Justyna Sokolov	ポーランド	ポーランド科学アカデミー	2019.2.23 - 3.16	外国人共同研究員
Daniel Verscharen	英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	2019.2.24 - 3.1	研究集会等参加者
Ming Zhnag	米国	フロリダ工科大学	2019.2.24 - 3.1	研究集会等参加者
Zhongwei Yang	中国	中国科学院	2019.2.24 - 3.1	研究集会等参加者
Asgari-Targhi Mahboubeh	米国	ハーバード・スミソニアン天体物理学センター	2019.2.24 - 3.2	外国人共同研究員
Marco Velli	米国	UCLA	2019.2.25 - 3.2	研究集会等参加者
Lee Kun-Han	台湾	中央研究院地球科学研究所	2019.3.1	外国人来訪者
Kristen Lani Rasmussen	米国	コロラド州立大学	2019.3.5 - 3.10	研究集会等参加者
Robert Fulton Rogers	米国	アメリカ海洋大気庁	2019.3.5 - 3.10	研究集会等参加者
Deanna Alicia Hence	米国	イリノイ大学	2019.3.5 - 3.11	研究集会等参加者
Michael Monroe Bell	米国	コロラド州立大学	2019.3.5 - 3.11	研究集会等参加者
Ming-Jen Yang	台湾	国立台湾大学	2019.3.5 - 3.11	研究集会等参加者
Wen-Chau Lee	米国	アメリカ大気研究センター	2019.3.5 - 3.11	研究集会等参加者

11. 国際交流

氏名	所属機関		期間	来訪時の身分
	国/地域	機関名		
Anthony Carl Didlake	米国	ペンシルベニア州立大学	2019.3.7 - 3.10	研究集会等参加者
Anukul Buranapratheprat	タイ	ブラバ大学	2019.3.8 - 3.14	外国人来訪者
Yukinaga Miyashita	韓国	韓国天文研究院	2019.3.14 - 3.19	外国人来訪者
Daniel Billett	英国	ランカスター大学	2019.3.15	外国人来訪者
Akira Konaka	カナダ	トライアンプ研究所	2019.3.18 - 3.22	研究集会等参加者
Tanguy Pierog	ドイツ	Karlsruhe Institute of Technology	2019.3.18 - 3.23	研究集会等参加者
Giles Barr	英国	オックスフォード大学	2019.3.19 - 3.22	研究集会等参加者
Jie Cheng	中国	中国科学院高能物理研究所	2019.3.19 - 3.22	研究集会等参加者
Ryuji Takeishi	韓国	成均館大学校	2019.3.19 - 3.22	研究集会等参加者
Jitraporn Phaksopa	タイ	カセサート大学	2019.3.19 - 3.27	外国人来訪者
Boaz Lazar	イスラエル	ヘブライ大学	2019.3.20 - 3.31	外国人共同研究員
Moti Stein	イスラエル	イスラエル地質調査所	2019.3.20 - 3.31	外国人共同研究員
Antonia Savcheva	米国	スミソニアン天文台	2019.3.21 - 3.29	外国人来訪者
Anatoli Fedynitch	カナダ	アルバータ大学	2019.3.23	外国人来訪者
Stephan meighen-Berger	ドイツ	ミュンヘン工科大学	2019.3.23	外国人来訪者
Felix Riehn	ポルトガル	Laboratório de Instrumentação e Física Experimental de Partículas	2019.3.23 - 3.29	外国人来訪者
Aline De Almeida Vidotto	アイルランド	トリニティ・カレッジ	2019.3.24 - 3.30	研究集会等参加者
Stephen A. Ledvina	米国	UCB	2019.3.24 - 3.30	研究集会等参加者
Yingjuan Ma	米国	UCLA	2019.3.24 - 3.30	研究集会等参加者
David Andrew Brain	米国	コロラド大学ボルダー校	2019.3.25 - 3.29	研究集会等参加者

海外機関所属の講師によるセミナー・講演

講演日	発表者	所属機関	企画名・発表タイトル	参加人数
2018.4.5	Fulvia Pucci	プリンストン大学	Solar Seminar/ Energy transfer and electron energization in collisionless magnetic reconnection for different guide-field intensities	13
2018.5.1	Zhongping Lee※	マサチューセッツ・ポストン大学	34th ISEE/CICR colloquium/ Remote sensing of basin-scale primary production: Abandoning the use of chlorophyll concentration	12
2018.5.8	Stephen Michae Playfer※	エジンバラ大学	35th ISEE/CICR colloquium/ Matter antimatter asymmetries	22
2018.5.14	Samuel Krucker※	University of Applied Sciences Northwestern Switzerland	36th ISEE/CICR colloquium/ Hard X-ray Observations as Diagnostics of Particle Acceleration in Solar Flares	21
2018.7.2	Mikinori Kuwata	南洋理工大	Atmospheric chemistry of wildfire in tropical Asia induced by peatland fire	不明
2018.7.5	Khan-Hyuk Kim	慶熙大学校	37th ISEE/CICR colloquium/ Large and small scale geomagnetic perturbations	12
2018.7.9	Hai Guo	香港理工大	High-resolution analysis of vehicle-related organic aerosols observed at a roadside site in Hong Kong with the application of TAG-GC-ToF-MS	不明
2018.7.9	Erica Lastufka	University of Applied Sciences Northwestern Switzerland	Solar seminar/ Occulted Flare of May 1, 2013 and the MiSolFA Hard X-ray Imager	17
2018.7.13	Willi Exner	ブラウンシュバイク工科大学	Special seminar/ Mercury's magnetosphere in strict positive and negative Bz	12
2018.7.23	K. D. Leka※	NorthWest Research Associates	Solar seminar/ Understanding and Forecasting the Solar Origins of Space Weather	18
2018.8.2	Hyomin Kim	ニュージャージー工科大学	Special seminar/ ULF Wave Observations Using Van Allen Probes and Ground-Based Interhemispheric Magnetometer Arrays	14
2018.10.3	Milija Zupanski	コロラド州立大学	38th ISEE/CICR colloquium/ New directions for development of high-dimensional data assimilation	13
2018.10.12	Alexandre Vasilyevich Koustov※	サスカチュワン大学	39th ISEE/CICR colloquium/ Contributions of coherent radars to studies of the near Earth's environment	30
2018.11.2	Daqing Yang※	カナダ環境・気候変動省	40th ISEE/CICR colloquium/ Arctic hydroclimatic regimes and changes in a warming climate	18
2018.11.2	Okke Batelaan	フリンダース大学	Urban Water-Food-Energy Nexus workshop in Nagoya University/ Introduction of the MLFP project	8
2018.11.5	Feng Chen	コロラド大学ボルダー校	Solar seminar/ Solar eruptions during magnetic flux emergence from the convection zone to the corona	19

11. 国際交流

講演日	発表者	所属機関	企画名・発表タイトル	参加人数
2018.11.10	Yukinaga Miyashita	韓国天文研究院	Special seminar/ Dipolarization observed by Arase	18
2018.11.10	Hyyangpyo Kim	韓国天文研究院	Special seminar/ EMIC waves observed from various satellites	18
2018.11.20	Takanobu Yamaguchi	NOAA Earth System Research Laboratory	41st ISEE/CICR colloquium/ Role of vertical wind shear in aerosol-cloud interactions in marine shallow cumulus clouds	21
2018.11.30	Michael Jürgen Kosch※	南アフリカ国立宇宙機関	42nd ISEE/CICR colloquium/ Sprites research in Africa	29
2018.12.6	Qurnia Wulan Sari※	Sriwijaya University	Oceanography Seminar/ The variability of the surface chlorophyll-a in the Karimata Strait	14
2018.12.17	K. D. Leka※	NorthWest Research Associates	Solar seminar/ Photospheric Magnetic Field Properties of Flaring vs. Flare Quiet Active Regions, V: Results from HMI	19
2018.12.17	Nariaki Vincent Nitta	Lockheed Martin Advanced Technology Center	Solar seminar/ CMEs as the Dominant Player of Space Weather	18
2018.12.25	Bjorn Stevens	マックス・プランク・気象研究所／ハンブルグ大学	43rd ISEE/CICR colloquium/ Shallow clouds and circulations	23
2019.1.16	Valentina Zharkova	ノーザンブリア大学	CICR colloquium/ Acceleration and transport of energetic particles in flaring atmospheres and their diagnostics from HXR and MW emission	13
2019.1.21	Baolin Tan	中国科学院国家天文台	Solar seminar/ Solar radio spectral fine structures and diagnostics of nonthermal processes	18
2019.3.1	Hisao Takahashi	ブラジル国立宇宙研究所	45th ISEE/CICR colloquium/ Equatorial Plasma Bubble Occurrence under Propagation of MSTIDs and MGWs	16
2019.3.1	Lee Kun-Han	中央研究院地球科学研究所	Special seminar/ Voyager 1 observations of interstellar electron turbulence spectrum	11
2019.3.15	Daniel Billett	ランカスター大学	Special seminar/ The role of neutral winds, plasma convection, and aurora on high-latitude thermosphere-ionosphere coupling	9
2019.3.18	Anukul Nranapratheprat	ブラパ大学	Oceanography Seminar/ Detection and modeling of green Noctiluca bloom in the Gulf of Thailand using satellite ocean color	14
2019.3.25	Jitraporn Phaksopa	カセサート大学	Oceanography Seminar/ Dr. Fridtjof Nansen Andaman Expedition in October 2019: water masses, currents and internal wave of the Andaman Sea	14

※兼 ISEE 所属

<略称>

AS CR	Academy of Sciences of the Czech Republic
CASS:	Center for Astrophysics and Space Sciences
CERN:	Conseil Européen pour la Recherche Nucléaire, European Organization for Nuclear Research
CESR:	Centre d'Etude Spatiale des Rayonnements
CETP:	Centre d'étude des environnements terrestres et planétaires
CNRS:	Centre National de la Recherche Scientifique
EISCAT:	European Incoherent Scatter Scientific Association
GSFC:	Goddard Space Flight Center
IBEX:	Interstellar Boundary Explorer
IFSI:	Istituto di Fisica dello Spazio Interplanetario
iLEAPS:	Integrated Land Ecosystem-Atmosphere Processes Study
IKFIA:	Institute of Cosmophysical Research and Aeronom
IMAP	Interstellar Mapping and Acceleration Probe
INFN:	Istituto Nazionale di Fisica Nucleare
INPE:	Instituto Nacional de Pesquisas Espaciais, Brazilian Institute of Space Research
INR RAS	Institute for Nuclear Research of the Russian Academy of Sciences
IPS:	Ionospheric Prediction Services
IPSL:	Institut Pierre-Simon Laplace
ISTP:	Institute of Solar-Terrestrial Physics
JHUAPL:	Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory
KASI:	Korea Astronomy and Space Science Institute
LAPAN:	Lembaga Penerbangan dan Antariksa Nasional, National Institute of Aeronautics and Space
LMSAL	Lockheed Martin Solar and Astrophysics Laboratory
LOFAR:	Low Frequency Array
LPC2E:	Laboratoire de Physique et Chimie de l'Environnement et de l'Espace
MSFC:	Marshall Space Flight Center
MWA:	Murchison Widefield Array
NASA:	National Aeronautics and Space Administration
NOAA	National Oceanic and Atmospheric Administration
NRNU MEPhI	National Research Nuclear University Moscow Engineering Physics Institute
SB RAS:	Siberian Branch, Russian Academy of sciences
SCOSTEP	Scientific Committee on Solar Terrestrial Physics
SLAC	Stanford Linear Accelerator Center
UCB:	University of California, Berkeley
UCI:	University of California, Irvine
UCLA:	University of California, Los Angeles
UCSC:	University of California, Santa Cruz
UCSD:	University of California, San Diego

海外派遣

■ 教員の外国出張

(2018年4月1日 - 2019年3月31日)

地域	渡航先	人数(延)	
アジア地域 (10)	インド	4	34
	インドネシア	1	
	カンボジア	1	
	ネパール	1	
	パキスタン	1	
	フィリピン	2	
	ベトナム	1	
	韓国	10	
	台湾	5	
	中国	8	
北米 (2)	カナダ	5	52
	米国	47	
中南米 (5)	アルゼンチン	2	7
	チリ	2	
	ブラジル	1	
	ボリビア	1	
	メキシコ	1	
欧州 (16) (NIS 諸国を含む)	イタリア	3	57
	オーストリア	1	
	オランダ	1	
	ギリシャ	2	
	スイス	6	
	スウェーデン	5	
	スペイン	5	
	チェコ	2	
	ドイツ	6	
	ノルウェー	12	
	フィンランド	1	
	フランス	6	
	ベルギー	1	
	ポルトガル	2	
ルーマニア	1		
ロシア	3		
オセアニア (2)	オーストラリア	1	2
	ミクロネシア	1	
中東 (2)	アラブ首長国連邦	1	4
	イスラエル	3	
その他 (1)	南極	1	1
合計	38	157	

12. 社会活動

一般向け講演会・施設の一般公開・出前授業・体験学習等

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
H30.5.23	市民向け特別講演「光では見えない宇宙を探る」(名古屋大学理学部南館坂田・平田ホール)	超高エネルギー宇宙線反応国際シンポジウム企画の高校生以上の一般市民を対象とした講演会。講師は2015年ノーベル物理学賞受賞者、梶田隆章博士。	国際会議 ISVHECRI 実行委員会、国際純粋・応用物理学連合、名古屋大学(宇宙地球環境研究所、素粒子宇宙期限研究機構)、東京大学宇宙線研究所	梶田 隆章 (東京大学宇宙線研究所所長)	250
H30.5.28	平成 30 年愛知県下水道推進協議会講演会 (アイリス愛知: 名古屋市)	「集中豪雨のメカニズムと地球温暖化に伴う将来変化」	愛知県下水道推進協議会	坪木 和久	70
H30.6.9	研究所一般公開と特別講演会「光でせまる宇宙と地球の姿」(名古屋大学宇宙地球環境研究所)		*1 参照		一般公開: 400 講演会:80
H30.7.7	第 10 回陸別スターライトフェスティバル	山崎直子宇宙飛行士「宇宙から見た地球」講演会&質問会	りくべつ宇宙地球科学館、足寄動物化石博物館、名古屋大学宇宙地球環境研究所	山崎 直子 (宇宙飛行士)	250
H30.7.8	素粒子と重力波で宇宙の謎に迫る(栄中日文化センター: 名古屋市)	「ニュートリノでみる宇宙」	中日文化センター	伊藤 好孝	54
H30.7.27	岡崎高校体験学習「名古屋大学宇宙地球環境研究所訪問見学会」(名古屋大学宇宙地球環境研究所)	講義「宇宙の重さを測る～暗黒物質の話～」・「北極の気候変化がもたらすもの」・「台風の航空機観測」見学実習「ラジオゾンデ(気球)観測体験」・「屋久杉サンプル説明」・「回転水槽実験とバーチャルリアリティー体験」・「気象レーダ見学」	愛知県立岡崎高等学校	伊藤 好孝 檜山 哲哉 篠田 太郎 ほか	22
H30.7.31	平成 30 年度農林水産省委託プロジェクト研究「K 系 豪雨に対応するためのほ場の排水・保水機能活用手法の開発」現地検討会 (TKP 札幌ビジネスセンター)	「北海道における豪雨とその将来変化」	農林水産技術会議	坪木 和久	50
H30.8.3-8.4	第 27 回公開セミナー「天文学の最前線」-国際化する天文学研究- (8/3 名古屋大学理学部 坂田・平田ホール、8/4 名古屋市科学館サイエンスホールおよびプラネタリウムドーム: Brother Earth)	「宇宙ガンマ線観測で解き明かす暗黒物質の正体」(8/3)	名古屋大学(大学院理学研究科、宇宙地球環境研究所)、名古屋市科学館	田島 宏康	300
H30.8.4-8.5	2018 年度「名古屋大学宇宙地球環境研究所及び東京大学木曾観測所」特別公開(木曾観測施設: 長野県木曾郡)	アンテナの見学、パネル展示、解説、「長野県は宇宙県」スタンプラリーチェックポイント	名古屋大学宇宙地球環境研究所、東京大学木曾観測所	太陽圏研究部スタッフ・大学院生	110
H30.8.7	2018 年度吉林大学(唐敖慶クラス(TAQクラス))学生夏季研修(名古屋大学宇宙地球環境研究所)	全学間協定校である吉林大学の学生を対象とする夏季研修の一環として、大気エアロゾルに関する説明を行った。また、訪問した学生に対して日本での学修について説明する機会を設けた。	名古屋大学	持田陸宏研究グループ(気象大気研究部)メンバー	不明

12. 社会活動

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
H30.8.7-8.8	夏休み特別企画・体験学習「東濃地方の地層について学ぼう」(名古屋大学宇宙地球環境研究所・瑞浪超深地層研究所・瑞浪市化石博物館・サイエンスワールド)		*2 参照		36
H30.8.24	第 22 回日本気象学会中部支部公開気象講座「集中豪雨 知る 診る 備える」(名古屋市科学館サイエンスホール)	「最新の気象レーダで診る豪雨」	日本気象学会中部支部 名古屋地方気象台、名古屋市科学館	高橋 暢宏	300
H30.8.24	皇學館高等学校大学訪問 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)	施設見学	皇學館高等学校	年代測定研究部スタッフ	7
H30.8.27	武蔵野大学数理工学シンポジウム 2018 (武蔵野大学有明キャンパス)	「明日の地球を守る宇宙天気予報」	武蔵野大学数理工学センター (MCME)	草野 完也	230
H30.9.29	国立大学附置研究所・センター会議 第 1 部会シンポジウム&ISEE 公開講演会「宙(そら)に挑む・宙(そら)から挑む」(名古屋大学理学南館 坂田・平田ホール)		*3 参照		289
H30.10.20	第 14 回名古屋大学ホームカミングデー (名古屋大学豊田講堂ホワイエ 1 階)	ブースを設け、パネル展示、配布物の設置、研究所紹介ビデオの上映など	名古屋大学	研究所構成員	200
H30.10.20	テクノ・フェア名大 2018 (名古屋大学・I B 電子情報館中棟 1 階)	研究内容・研究成果のブース展示(「オーロラと地磁気を測る」、「工学部で学ぶ宇宙の研究」)、ショートプレゼンテーション「オーロラと超高層大気の科学」、セミナー「オーロラの科学」など	名古屋大学工学部	塩川 和夫 三好 由純	110
H30.10.17-10.22	Space Weather Science Towards Improved Forecasting COSPAR Capacity Building Workshop (INPE, Sao Jose dos Campos, サンパウロ、ブラジル)	lecture on "Ionized and Neutral Earth's Atmosphere"	COSPAR EMBRACE, Brazil	大塚 雄一	60
H30.11.4	～現代素粒子物理学最前線～ 「人類が対峙する宇宙暗黒面の 3 つの謎」(名古屋大学野依記念学術交流館)	講演 3「素粒子観測で探る宇宙構造形成の起源」	学術研究・産学官連携推進本部、素粒子宇宙起源研究機構 (KMI)、タウ・レプトン物理研究センター、あいちサイエンスフェスティバル	伊藤 好孝	117
H30. 11.9	陸別町社会連携連絡協議会連携講座「出前授業」(陸別町立陸別小学校・陸別中学校：北海道)		*4 参照		イベント参加者 200
H30. 11.10	「驚き！おもしろ科学実験 2018」(りくべつ宇宙科学館(銀河の森天文台)：北海道)				
H30. 11.11	仁科記念講演会 2018 「アイソトープで探る宇宙」(多摩六都科学館サイエンスエッグ)	講演 1「屋久杉に刻まれた過去の太陽活動」	公益財団法人仁科記念財団	三宅 美沙	200
H30. 11.11	みんなの科学基地 サイエンス講演会 (豊橋視聴覚教育センター)	「瞬くオーロラと宇宙のさえざり」	豊橋視聴覚教育センター	三好 由純	30
H30.11.16	SSH「究理 I」フィールドワーク	オゾン層の破壊とその影響について解説	滋賀県立虎姫高等学校	長瀨 智生	4
H30.11.18	あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク事業「名古屋大学出前授業 in 豊橋 2018」(豊橋市自然史博物館)	「永久凍土と気候変動」	あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク事業、名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部	檜山 哲哉	40

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
H30.11.22	平成 30 年度木曾三川流域開放講座木 (桑名市メディアライブ多目的ホール)	「将来の台風は地球温暖化に伴いどこまで強くなるのか」	国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所	坪木 和久	41
H30.11.23	地球電磁気・地球惑星圏学会 2018 年一般公開イベント「はかせとワクワク大科学実験☆地球と宇宙のひみつを解明しよう！」(名古屋大学野依記念交流館)	トークショー「「はやぶさ 2」～リュウグウ到着！目指せタッチダウン成功～」、工作、「はかせと実験」コーナー、「おしえて☆はかせ！」コーナー、展示	地球電磁気・地球惑星圏学会、名古屋大学宇宙地球環境研究所	地球電磁気・地球惑星圏学会アウトリーチ部会	230
H30.11.28	河川財団名古屋研究発表会	「台風や集中豪雨などのメカニズムと地球温暖化に伴う将来変化」	公益財団法人 河川財団名古屋事務所	坪木 和久	157
H30.12.2	みんなの科学基地 サイエンス講演会 (豊橋視聴覚教育センター)	「航空機を用いた台風の観測」	豊橋視聴覚教育センター	坪木 和久	40
H30.12.15	青少年のための科学の祭典 (鹿児島県垂水市キララドーム)	ブース出展 (展示・実験) 「地磁気をはかろう」	「青少年のための科学の祭典 in 垂水 2018」実行委員会、垂水市、垂水市教育委員会、公益財団法人日本科学技術振興財団	塩川 和夫 学部生 4 名	520
H30.12.19	関西学院千里国際高等部スーパーグローバルハイスクールイベント「リカタビ」	オゾン層および電磁波工学に関する講演および超伝導受信機開発環境の見学	関西学院千里国際高等部	長瀬 智生 中島 拓	18
H30.12.23	第 11 回高等研究院レクチャー「アフガニスタンの仏教遺跡～バーミヤーン文化遺産を解き明かす～」(名古屋大学理学南館坂田・平田ホール)	「バーミヤーンの二大仏と石窟壁画の放射線炭素年代測定」	名古屋大学高等研究院、名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター	中村 俊夫	300
H31.1.18	中部原子力懇談会 エネルギー環境専門部会 (名古屋商工会議所)	「台風の過去・現在・未来～台風は地球温暖化と共にどう変化するのか、防災のためにいかに予測を高精度化するか～」	中部原子力懇談会	坪木 和久	60
H31.2.12	平成 30 年度 地方気象台活性化に係わる講演の開催 (名古屋地方気象台：名古屋市)	「フェーズドアレイ気象レーダーによる降水システムの観測」	名古屋地方気象台	高橋 暢宏	40
H31.2.17	第 16 回気象サイエンスカフェ in 名古屋 (7th café・ナディアパーク：名古屋市)	「地球温暖化と集中豪雨」	日本気象学会中部支部、日本気象予報士会東海支部	増永 浩彦	40
H31.2.28	宇宙ビジネス促進セミナー (ウインクあいち：名古屋市)	「超小型衛星による宇宙の民間利用」	愛知県産業労働部産業振興課	田島 宏康	100
H31.3.1	DIAS コミュニティフォーラム (東京大学生産技術研究所コンベンションホール：東京都)	DIAS に格納されている気象データ 1 例 (CRSS1) の説明	データ統合・解析システム DIAS (Data Integration and Analysis System)	坪木 和久	83
H31.3.3	第 33 回東濃地科学センターセミナー (瑞浪市地域交流センター「ときわ」)	「激甚気象はなぜ起こるのか？～台風や集中豪雨などのメカニズムと地球温暖化に伴う将来変化～」	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構東濃地科学センター	坪木 和久	80
H31.3.23	自由散策型まちあるきイベント「プラアイチ in 豊川～桜薫る、平和のまち。その礎の痕跡を辿るまちあるき～」(名古屋大学宇宙地球環境研究所豊川分室)	イベントに主要スポットとしてポイント参加し、太陽風観測施設(電波望遠鏡)を一般公開。その仕組みや取得した観測データを使った研究について展示パネル等で説明した。	愛知県、豊川市	太陽圏研究部スタッフ、大学院生、事務部スタッフ	206

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
H31.3.25-3.29	太陽研究最前線体験ツアー2019 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)	「太陽物理学入門」、「宇宙天気と宇宙気候: 太陽活動を予測する、太陽フレアにおける粒子加速」	名古屋大学宇宙地球環境研究所、京都大学大学院理学研究科附属天文台、国立天文台 (太陽観測科学プロジェクト、太陽天体プラズマ研究部)、東京大学大学院理学系研究科太陽天体プラズマ研究室、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、滋賀大学教育学部、太陽研究者連絡会	草野 完也 増田 智	10
H31.3.31	海を観る・地球を知る 2019 ~体験! 海洋研究最前線 in 蒲郡~ (蒲郡市生命の海科学館)	ブース展示: 1・プランクトン顕微鏡観察、2・海の色彩のヒミツ、3・回転水槽実験 講演会: 海の中の雪 (マリンスノウ) (鋤柄千穂/東京海洋大学特任助教)	名古屋大学宇宙地球環境研究所、蒲郡市生命の海科学館	海洋学研究室メンバー	展示: 132 講演会: 60

*1: 研究所一般公開と特別講演会の開催

研究所で行われている研究内容を一般に広く知ってもらうために、名大祭と連携して2018年6月9日(土)~10日(日)、第3回宇宙地球環境研究所一般公開「光でせまる宇宙と地球の姿」を実施した(主催・共催: 名古屋大学、第59回名大祭、宇宙地球環境研究所)。

① 研究室公開 (6月9日10:00~17:00) ・ ・ 研究施設を公開し、パネル、模型展示、実験や体験コーナー、宇宙や地球の映像を楽しめるシアターなどを用意した。教員や大学院生らがこれらを解説・説明するほか、参加者からの質問に答えるなどし、子どもから大人までが楽しめる内容を工夫した。名大祭企画の「ラボレクチャー」や「サイエンススタンプラリー」も同時に実施され、この企画の参加者らの来訪もあった。

② 特別講演会 (6月9日13:00~15:00) ・ ・ 研究所共同館II3階ホールにおいて、特別講演会を開催。阿部文雄准教授(統合データサイエンスセンター)による「重力波と“光”で探る重元素の起源」と榎並正樹教授(年代測定研究部)による「顕微鏡で旅する時間と空間」の2つの講演を実施した。

③ 名大祭合同展示会 (6月9日、10日10:00~17:00) ・ ・ 名古屋大学豊田講堂シンポジオン会議室において名大祭の合同展示にも参加した。研究内容や成果についてのポスター展示をし、教員や大学院生がこの説明を行った。また、研究所で発行している一般向けの冊子や研究所紹介ビデオへのリンクが印刷されたポストカードの配布も行った。

*2: 夏休み特別企画・体験学習「東濃地方の地層について学ぼう」の開催

2018年8月7日(火)、8日(水)、本研究所年代測定研究部が中心となり、小学校4年生から6年生の児童を対象とした夏休み特別企画・体験学習「東濃地方の地層について学ぼう-科学の楽しさに触れよう-」を実施した(主催: 本研究所、協力: 名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻)。

この企画は児童が「見学・巡検(野外調査に出かけて自然にふれる)」、「科学実験・サイエンスショー(科学の楽しさにふれる)」、「講義(教員が地球環境史を解説、室内実習、学習成果発表)」という2日間連続のユニークな体験学習である。プログラムは次のとおり。

①一日目 ・ ・ 野外調査(大型貸切バスで移動)。岐阜県瑞浪市の地層観察(講師: 林誠司・名古屋大学環境学研究科講師)、博物館の見学(岐阜県先端科学技術体験センター・サイエンスワールド、瑞浪市化石博物館、地下ミュージアム・地球回廊)。

②二日目 ・ ・ 名古屋大学で地層や化石に関する講義および実習・発表(講師: 榎並正樹・本研究所教授、林誠司・名古屋大学環境学研究科講師)。

***3：国立大学附置研究所・センター会議 第1部会シンポジウム & ISEE 公開講演会「宙に挑む・宙から挑む」の開催**

2018年9月29日(土) 13:00-16:30 名古屋大学理学南館 坂田・平田ホールにおいて、一般市民や学生を対象にした講演会を開催し、289名の参加があった。(共催：国立大学附置研究所・センター会議 第1部会、本研究所)

本講演会は「宙(そら)に挑む・宙(そら)から挑む」と題して最新の研究の一端を紹介。内容は次の通り。①開会の辞(草野完也：本研究所所長)、②来賓の辞(磯谷桂介：文部科学省研究振興局長)、③講演「太陽と惑星と生命と」(常田佐久：自然科学研究機構国立天文台長)、④講演「オーロラの光を通してみる宇宙」(塩川和夫：本研究所教授)、⑤講演「台風に挑む：強度の高精度測定と予測を目指して」(坪木和久：本研究所教授) ⑥講演「宇宙線で発見したクフ王ピラミッドの巨大空間」(森島邦博：名古屋大学高等研究院特任助教) ⑦閉会の辞(梅村雅之：国立大学附置研究所・センター会議第1部会長/筑波大学計算科学研究センター長)。

***4：陸別町社会連携連絡協議会連携講座「出前授業」と「驚き！おもしろ科学実験2018」の開催**

陸別町(北海道足寄郡)と本研究所は2003年3月、両者による社会連携連絡協議会を発足させ、さらに2012年には陸別町・名古屋大学・北海道大学・北見工業大学・国立環境研究所・国立極地研究所の6機関による陸別町社会連携連絡協議会を発足させた。本研究所はその幹事機関として、定期的に地域貢献の計画と運営に関する会議を開催し、広範なテーマで出前授業やイベントの開催を行っている。本年度の関連企画は2018年11月9日(金)と11月10日(土)に次の通り実施した。

① 出前授業(11月9日)、陸別町立陸別小学校と同中学校において実施した。本年度は北海道大学、北見工業大学、国立環境研究所が授業を担当した。

② イベント(11月10日)、りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)にて「驚き！おもしろ科学実験2018」を開催した。(共催：りくべつ宇宙地球科学館、本研究所、北海道大学大学院理学院、北見工業大学社会連携推進センター、足寄動物化石博物館)。

会場の1階展示室には共催機関の教員や学生らが工夫を凝らした実験コーナーを設けた。本研究所は「ふちんしで空気の揺れるようすをしてみよう」と題して、実験コーナーに参加した。また、ミニ講演会「オーロラへの想いーカナダでの暮らしー」とワークショップ「オーロラ・夜空の撮影方法」(内野志織：写真家)も同時に開催された。親子連れを中心に200名を超える来場者があり、体験しながら科学の面白さを学べるイベントを楽しんだ。

■ その他の広報活動

1. 一般向け冊子の制作・配布

宇宙地球環境を題材にした科学解説「50のなぜ」シリーズや科学コミックシリーズなどの小冊子を制作し、研究所公開や講演会、ポスター展示などに合わせて一般に配布している。最先端の研究を分かりやすい言葉で解説し、広く社会に紹介することで、研究成果を国民へ還元している。これらの冊子は、りくべつ宇宙地球科学館に常時置かれている。また、Webにて公開しており、この普及のための紹介ポストカードを作成し、愛知県立高等学校普通科生徒の1年生と2年生の全生徒に配布した。

2. Newsletter の発行

本研究所の最新情報を伝えるために、ニュースレターを発行している。研究内容の紹介やイベント等の開催報告、ニュース、コラムなどを掲載し、2018年度はVol.6(2018年7月)とVol.7(2019年1月)を発行した。

3. ウェブページの運用

本研究所のウェブページ(<http://www.isee.nagoya-u.ac.jp/>)を公開している。同ページに「Topics」と「今月の1枚」のコーナーを設けて最新の研究成果等を公表すると同時に、研究所発行各種冊子のPDFファイルを掲載し、研究所の活動と研究成果の最前線を一般市民に即座に伝える活動を行っている。また、中高生向けのページを新たに設け、研究室の紹介やイベントの情報などを発信している。

4. 紹介ビデオ「宇宙地球環境の研究とは」の制作

高校生や学部生、一般などに向けて、本研究所の研究内容を分かりやすく伝えるビデオを制作し、本研究所のウェブページやYou Tubeから視聴できるようにしている。本年度はこれに英語キャプションをつけ、海外の視聴者にも理解してもらえるようにした。

報道等

■ 新聞（デジタル含む）掲載

年月日	新聞名	記事
H30.4.2	毎日新聞（地方版／富山）	18 記者レポート：本州最古の「火きり白」 現場の目利きで発見 専門家と連携 石川・真脇遺跡
H30.4.22	産経ニュース（Web）	太陽の巨大爆発に現実味 「スーパーフレア」 甚大な被害懸念
H30.5.9	十勝毎日新聞	宇宙や地球のなぜ HP で冊子を公開
H30.5.10	読売新聞（東京朝刊）	竜巻の発生とらえた 台風時、わずか5分 気象研究所
H30.5.14	朝日新聞（夕刊・1 総合）	大型建物、卑弥呼の時代か 奈良・纏向遺跡 桃の種、西暦 135～230 年と分析【大阪】
	朝日新聞（夕刊・2 総合）	卑弥呼の時代示す桃の種？ 奈良・纏向遺跡から出土、年代測定
	毎日新聞（大阪夕刊）	邪馬台国：纏向の種、卑弥呼時代 放射性炭素年代測定「135～230年」 畿内説さらに強まる
	毎日新聞（東京夕刊）	邪馬台国：強まる「畿内説」 年代測定、纏向遺跡で卑弥呼時代の種
	産経 West（Web）	卑弥呼の時代？纏向遺跡出土の桃の種 西暦 135～230 年のものと判明 奈良・桜井市
	徳島新聞（Web）	纏向出土のモモ、2～3 世紀
	日本経済新聞（Web）	卑弥呼時代の種か 年代測定で「邪馬台国＝畿内」補強
H30.5.15	毎日新聞（西部朝刊）	邪馬台国：奈良に卑弥呼期の種 纏向説強まる
	毎日新聞（大阪朝刊）	邪馬台国：強まる畿内説 纏向の種「135～230年」
	毎日新聞（東京朝刊）	邪馬台国：卑弥呼も食べたモモの種？ 土器付着物も 2～3 世紀 奈良・纏向遺跡
	奈良新聞（Web）	邪馬台国 畿内説後押し - 西暦 135 年～230 年と判明／纏向遺跡のモモの種、年代測定
	北海道新聞（Web）	纏向遺跡で出土、モモの種は 2～3 世紀 放射性炭素測定、卑弥呼の時代か
	毎日新聞（Web）	測定した教授「集大成」 モモの種年代測定
H30.5.16	読売新聞（東京朝刊）	邪馬台国期の「桃の種」 奈良・纏向遺跡 年代測定で確認
	読売新聞（大阪朝刊）	「纏向の種」 邪馬台国時代 8 年前出土、科学分析 135～230 年
H30.5.28	毎日新聞（東京夕刊）	Topics：纏向遺跡の種、年代測定を巡って 100 年の幅、いかに限定 他分野連携深めた研究の必要性
H30.6.18	毎日新聞（東京夕刊）	今どきの歴史：纏向遺跡（奈良県桜井市）のモモの種 真の年代はどこに？
	yahoo ニュース（Web）	モモの種で「邪馬台国論争」終止符か
H30.7.1	財経新聞（Web）	広島大学ら、ブラックホールに吸い込まれる直前の物質を世界で初めて観測
H30.7.6	毎日新聞（Web）	広範囲になったメカニズム…「線状降水帯」も多発
	毎日新聞（Web）	岐阜、3 万人避難勧告 東海地方、激しい雨続く
	毎日新聞（Web）	37 万人避難指示 広島、京都で 2 人死亡
H30.7.7	読売新聞（大阪朝刊）	前線停滞 広範囲で活発 太平洋高気圧弱く あすまで大雨恐れ
	朝日新聞（Web）	梅雨前線、異例の居座り 大雨を招いたメカニズムは
H30.7.8	朝日新聞（朝刊・2 総合）	（時時刻刻）豪雨、広域・同時多発 特別警報 9 府県、各地で雨量最大
H30.7.10	毎日新聞（Web）	大丈夫やけん見捨てん 突然の別れ、信じられん（その 1）
	毎日新聞（Web）	水蒸気量は台風並み 名古屋大教授が分析
	毎日新聞（Web）	見捨てたりしない 市井の人、救助奔走（その 2 止） 水蒸気量は台風並み
H30.7.13	読売新聞（大阪朝刊）	西日本豪雨 高気圧に挟まれ 前線停滞 大量の水蒸気 流れ込む
	日本経済新聞（Web）	広域豪雨、リスク露呈 西日本被災から 1 週間
	読売新聞（Web）	<西日本豪雨>高気圧に挟まれ前線停滞
H30.7.14	日本経済新聞	西日本被災 1 週間、広域豪雨、リスク露呈、悪条件重なる、「ソフト防災」にも壁
H30.7.16	朝日新聞（朝刊）	（科学の扉）「想定外」を考える 元気ない太陽、夏が消える 相次ぐ異常気象、計り知れぬ影響
H30.7.18	文教速報	函館高専教授が日本文化財化学賞で論文賞
H30.7.19	日本経済新聞（Web）	NICT など、実用型「マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダ」を用いた実証実験を開始

年月日	新聞名	記事
H30.7.19	福井新聞、共同通信、東京新聞、神戸新聞NEXT、佐賀新聞Live、新潟日報モア、下野新聞SOON、山梨日日新聞電子版、西日本新聞西スポ、山形新聞Online、静岡新聞、川北新報ONLINE、日本経済新聞下野新聞（以上Web）	ゲリラ豪雨の直前予測、実験へ
H30.7.23	jiji.com（Web）	最大30分前に豪雨予測＝新型レーダーの実証実験開始－西日本豪雨
	朝日新聞（Web）	ゲリラ豪雨予測してメールします 首都圏で実証実験開始
	日本経済新聞（Web）	ゲリラ豪雨を30分前に予測、新型の気象レーダーが稼働
H30.7.24	朝日新聞	「30分後ゲリラ豪雨」予測へ実証実験開始
	日経産業新聞	ゲリラ豪雨30分前予測
	日本経済新聞	豪雨レーダー実証実験始まる
	NHK NEWS WEB	東京五輪・パラへゲリラ豪雨予測のレーダー実験始まる
H30.7.25	Bp-Affairs（Web）	最大30分先のゲリラ豪雨を予測する気象レーダーの実証実験を開始
	日刊工業新聞	積乱雲立体的に捕捉 豪雨30分前に予測
H30.7.28	産経新聞	「ソロモンの頭巾」
	日本経済新聞（Web）	台風、飛行機で直接観測 予測精度16%向上
	メーテレ（Web）	飛行機から台風の直接観測 「予測精度の向上期待」
H30.7.30	共同通信（Web）	台風の気圧を直接観測
	日本経済新聞（夕刊）	台風の目接近、予測精度高く、名古屋大など飛行機で
H30.8.6	日刊工業新聞（Web）	琉球大など、航空機で台風観測 強度・進路予測向上
	毎日新聞（Web）	実証実験ゲリラ豪雨を予測、メールで情報配信
H30.8.7	マイナビニュース（Web）	台風の予測精度を上げられる可能性が、突入観測で見えた
	毎日新聞（中部朝刊）	素早く予測 情報通信研究機構など、新型レーダー実証実験
	毎日新聞（東京朝刊）	ゲリラ豪雨：素早く予想 モニター2000人、精度に反映 新型レーダー実証実験
H30.8.12	毎日新聞（北九州）	ゲリラ豪雨 短時間で予測し配信
H30.8.18	佐賀新聞	見聞録：雨雲の立体構造素早く観測
H30.8.19	北海道新聞（全道版夕刊）	北の交易路 起源判明
H30.8.27	読売新聞（東京朝刊）	雨予報 10～30分先びたり
H30.9.1	日本経済新聞（朝刊）	超巨大災害まさか（3）スーパー台風、首都圏を直撃。
H30.9.5	FNN Prime（Web）	“世界に一つだけ”の最新・最速レーダーで気象予測！
H30.9.7	朝日新聞（朝刊）	海上空港の弱さ露呈 再開「まったく未定」 台風、関空冠水 【大阪】
H30.9.21	日経プレスリリース（Web）	水素イオンからヘリウムイオンへの電磁波を介したエネルギー輸送過程を検出
H30.9.22	毎日新聞（東京朝刊）	ひまわりEYE：異常気象原因に「悪い偶然」も
H30.9.26	現代ビジネス（Web）	もうゲリラ豪雨も怖くない メールで「豪雨の直前」通知が来た
H30.9.28	日刊工業新聞	低エネ軟X線帯域太陽光の波長・割合を撮像分光 名大が観測技術
	ハザードラボ（Web）	大型台風24号 琉球大が「中心の目」に進入成功！来週は列島縦断か
H30.9.30	グノシー（Web）	大型台風24号 琉球大が「中心の目」に侵入成功！来週は列島横断か
H30.10.1	読売オンライン（Web）	暖かい黒潮に沿って北上、勢力保ったまま上陸
	読売新聞（大阪朝刊）	台風24号 黒潮に沿って勢力維持
	読売新聞（東京朝刊）	台風24号 黒潮に沿って北上 勢力衰えず本州に
	毎日新聞（大阪夕刊）	台風24号：縦断、首都圏大混乱 16府県104人けが 鳥取・山梨で2人死亡
H30.10.8	毎日新聞（Web）	気象専門家 なぜ今年は「非常に強い」台風、上陸するのか
H30.10.8	日本経済新聞（朝刊）	台風24号、飛行機突入させ調査、名大など、気圧や風速

年月日	新聞名	記事
H30.10.10	毎日新聞 (Web)	北大西洋宇宙の光で未知の天体探せ 最新鋭望遠鏡が完成
	共同通信 (Web)	北大西洋に最新鋭の望遠鏡
H30.10.11	日本経新聞	暗黒物質の謎に挑む カナリア諸島に最新望遠鏡の1号機
	読売オンライン (Web)	平成そっくり? 猛暑、豪雨、台風に怯えたあの時代
H30.10.20	産経新聞 (Web)	「宇宙大航海時代の幕開け」「教科書書き換える」 水星探査機「みお」関係者ら
H30.11.18	中日新聞	豪雨の一因「線状降水帯」に飛行機で迫る 名大などが来夏に
H30.11.22	mugendai (Web)	迫りくる世界の水飢饉——深刻化する猛暑や渇水に、高まる「人工降雨」への期待
H30.12.23	朝日新聞 (朝刊)	早めの避難 難しい判断
H31.1.15	財形新聞 (Web)	観測ロケット「FOXSI-3」が世界初観測した太陽コロナの軟X線データが公開
H31.1.16	日経速報ニュースアーカイブ (Web)	金沢大・名大・東北大など、地球近傍の宇宙で発生するプラズマと電磁波の相互作用発生域の可視化に成功
H31.1.22	財形新聞 (Web)	オーロラ用いて宇宙の「波動粒子相互作用」を可視化 発生詳細が初めて明らかに
H31.1.25	日刊工業新聞	地球周辺の電子変動現象:「プラズマの波」影響
H31.2.12	朝日新聞デジタル (Web)	オーロラ爆発の下、大量の電子 専門家「通り道がある」

■ テレビ・書籍ほか

年月日	番組/WEB サイトなど	放送局など	内容	出演/担当
H30.7.9	クローズアップ現代+	NHK	緊急報告 西日本豪雨 ～被害はなぜ広範囲に及んだのか～	坪木 和久
H30.7.23	ニュース 545	TV 埼玉	最新の気象レーダー 実証実験を開始/埼玉県	高橋 暢宏
H30.7.23	プライムニュース	フジ TV	ゲリラ豪雨の予測実験始まる メールで発生を通知	高橋 暢宏
H30.7.24	みんなで 2020 宣言	NHK	猛暑と局地的大雨 対策は?	高橋 暢宏
H30.7.24	おはよう日本	NHK	西日本豪雨 各地の状況ライブ東京五輪・パラへ ゲリラ豪雨予測のレーダー 実験始まる	高橋 暢宏
H30.7.27	ニュース 7	NHK	台風 12 号について解説	坪木 和久
H30.7.30	イッポウ	CBC	台風 12 号について解説	坪木 和久
H30.8.24	NEWS24	日本テレビ	突然のゲリラ豪雨…最新技術で回避可能に?	高橋 暢宏
H30.9.5/9.6	ゆうがたサテライト	テレビ愛知	最新レーダーでゲリラ豪雨を予測 (前後編)	高橋 暢宏
H30.9.27	NEWS WEB	NHK	台風24号を航空機で空から観測 気象庁も活用	坪木 和久
H30.9.28	TBS News	TBS	【現場から、】スーパー伊勢湾台風の懸念高まる	坪木 和久
H30.10.7	『ニュートン』2018年10月号	(株)ニュートンプレス+	ゲリラ豪雨が「ゲリラ」じゃなくなる!?	高橋 暢宏
H30.10.15	投稿! DO 画くん	NHK	ネット動画最前線 10月第3週放送「NASA 動画」のオーロラについて解説	塩川 和夫
H30.11.1	『JSTnews』(広報誌)2018年11月号	国立研究開発法人科学技術振興機構	豪雨被害を減らせ 新型気象レーダーで観測強化	高橋 暢宏
H30.12.19	グッドモーニング	テレビ朝日	番組内のクイズコーナー「お天気検定」への出題協力。本研究所クレジット掲載	西谷 望
H31.1.10	『子供の科学』2019年2月号	(株)誠文堂新光社	なぜ?なぜ?どうして?	塩川 和夫
H31.1.17	News 4 Tucson	KVOA-TV	Whipple Observatory scientists inaugurate new gamma-ray telescope	田島 宏康 奥村 暁
	News 13	KOLD-TV	New first-of-its-kind Southern Arizona telescope could change way we observe space	田島 宏康 奥村 暁
H31.1.18	Tucson.com	Arizona Daily Star	New gamma-ray telescope unveiled at Whipple Observatory south of Tucson	田島 宏康 奥村 暁

施設の住所・連絡先

地区		名称	所在地	電話・FAX
東山地区	①	研究所共同館I・II	〒464-8601 名古屋市千種区不老町	TEL: 052-747-6303 FAX: 052-747-6313
豊川地区	②	豊川分室	〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13	TEL: 0533-89-5206 FAX: 0533-86-3154
北海道地区	③	母子里観測所	〒074-0741 北海道雨竜郡幌加内町字母子里北西 3	TEL: 0165-38-2345 FAX: 0165-38-2345
	④	陸別観測所	〒089-4301 北海道足寄郡陸別町字遠別	TEL: 0156-27-8103
			〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字ポントマム 58-1, 78-1, 78-5, 129-1, 129-4	TEL: 0156-27-4011
山梨地区	⑤	富士観測所	〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺 1347-2	TEL: 0555-89-2829
鹿児島地区	⑥	鹿児島観測所 (アンテナ)	〒891-2112 鹿児島県垂水市本城字下本城 3860-1	TEL: 0994-32-0730
			〒891-2115 鹿児島県垂水市大字浜平字山角	

